

関西グローバルヘルスの集い

第2回 国際保健での官と民の関係・連携

～予防接種を例に挙げて～

2019年3月6日水曜日、第2回関西グローバルヘルスの集いが開催されました。2回目となる今回も、大阪の本町にあるサラヤメディカルトレーニングセンターを会場に、関係者9名を含む計25名が参加しました。今回は、「国際保健での官と民の関係・連携 ～予防接種を例に挙げて～」をテーマに、当協会理事である安田直史先生に話題提供を頂いた後、参加者全員参加によるワークショップを行いました。



兵庫医療大学看護学部看護学科助教

山田絵里

看護師として病院等で勤務した後、2008年に渡豪。2015年大阪大学大学院医学系研究科博士前期課程を修了後、大阪大学医学部附属病院国際医療センターにて国際医療コーディネーターとして勤務。2017年より現職。

予防接種における PPP とは

今回は、持続可能な開発目標（SDGs）の中でも、「3. すべての人に健康と福祉を」、「17. パートナリシップで目標を達成しよう」の2点に注目し、予防接種に関する官と民との連携（Public-Private Partnership for Health：以下 PPP）について話題提供を頂きました。

（写真①）

予防接種における PPP として、2000年に設立された Gavi（Global Alliance for Vaccines and Immunization）のミッションは、「低所得国での公平なワクチン普及によって子どもの命と人々の健康を守る」ことで、理事会メンバーには国連（WHO、UNICEF、World Bank）、途上国ならびに先進国の政府代表等に加え、ワクチン製薬会社や Bill & Melinda Gates Foundation、Gavi CEO 等が名を連ねています。Gavi の設立による資金調達の顕著な増加から、多くの新ワクチン

ン導入や予防接種カバレッジの増加が達成され、子ども死亡率低下につながったと考えられます。しかし一方で、世界の予防接種におけるリーダーシップは、WHO 等国連から Gavi や私企業、ワクチン製薬会社に移ったようにも捉えられ、これは予防接種がパブリックサービスからビジネスに変化したとも考えられます。この結果、予防接種の方針やアジェンダ設定において、Gavi やワクチン製薬会社等が多大な影響を持つようになり、この状況については賛否が分かれています。

ワークショップでは、世界の予防接種において Gavi の様な PPP に賛成、または反対であるという2つの違う立場に立って議論を行う形式を取り入れました。

グループ分け

世界の予防接種においては Gavi の様な PPP に賛成／反対である

議論する内容

1. 賛成／反対の理由
2. 国際保健のアジェンダを設定し、リードするのが、私企業や個人に集中しないためにはどうすればいいか？
3. 公平で持続可能な予防接種を普及するための新しいパートナーシップを考える

運営側が指定したグループでのディスカッションであったため、実際の自分の

意見とは反対の立場で議論することに困難さを感じる方々もいましたが、どのグループも活発に意見交換ができていました。グループワーク後の発表では、賛成グループから、「実益を得るための人材育成が必要」、「支援を受ける側が受動的にならないような工夫が必要」といった意見が見られた一方、反対グループでは、「民間は撤退し、途上国自身で対策を行うシステム作りが必要」といった意見があり、様々な視点から予防接種に関する PPP について考えを深めることができました。

今後の展望

今回の第2回関西グローバルヘルスの集いでは、前回終了後に頂いたご意見や運営スタッフで共有した改善点を踏まえ、より充実した集いを目指しました。新たな取り組みとして、指定された立場のグループでディスカッションを行うことにもチャレンジしましたが、参加者全員が積極的に発言し、「ディスカッションの時間が有意義だった」という感想も頂きました。参加者の皆様と運営スタッフが協働し、素晴らしい意見交換の場が持てたことへの感謝と同時に、より多くの方がグローバルヘルスについて語ることでできる場づくりを工夫していきたいと考えます。

写真① 話題提供の様子

